関西支部第21回夏季大学報告：最近の気象災害とマッチしたテーマで開催

関西支部第21回夏季大学は，大阪市立科学館において同館との共催で7月27，28の両日開催された．大阪管区気象台および日本気象協会関西本部の後援を受け，実際に多大の協力を得た．「大雨と災害」をテーマとし，27日に山元龍三郎氏(京都大学名誉教授)「集中豪雨の動向を探る」，井上和也氏（京都大学）「豪雨と氾濫災害」，28日に吉崎正憲氏（気象研究所）「大雨をもたらすもの〜メソ対流系〜」，河崎善一郎氏(大阪大学)「雷放電と避雷・被雷」の計4講を，また27日に酒井敏氏（京都大学）「気象・流体実験その2」を実施した．折しも豪雨災害が日本各地で発生したこともあり，本夏季大学は報道機関の関心を呼び，在阪テレビ局3社の取材を受けニュース番組で放映された．受講者に対するアンケートの回答を見ると，4講それぞれ難易の差はあったにせよ，講義の要点は理解されたことが窺え，新しい気象知識の普及という目的を十二分に果たしたと考えられる．都市の氾濫災害と雷は関西支部夏季大学では目新しい題材であり，面白かったという率直な感想が数多く寄せられた．気象実験では，ビデオ撮影した模型の挙動を時間軸を引き延ばして再生し相似則を実感させた後，地球の自転にまつわるいくつかの実験を披露し，受講者の好評を博した．これでコリオリ力が理解できたという感想が一つならず寄せられたのは注目に値する．気象実験には前回にもまして今後への期待が高まっている．

関西支部では夏季大学を無理なく継続できるようにするため，実務を相当整理，軽減してきた．受講料の前納を取りやめたのもその一環であるが，反面当日の欠席者の増加を招くことにもなっている．本年は定員80名に対し受講者は延べ70名にとどまり，受講者の間にも空席が目立つ感を与えた．しかし，この点についても，受講を申込みながら選外となった人々について「空席待ち」を考えてはとの提案があり，関西支部夏季大学を盛り立てたい意向が示されたのは実施者として心強い限りである．この点は今後真剣に検討したいと考えている．終わりに，猛暑のさなかを講義，実験に当たられ，また受付などの実務に尽力された各位に深謝の意を表する．

（関西支部）

関西支部1999年度第3回例会のお知らせ

日本気象学会関西支部は1999年度第3回例会(四国)を次の通り開催します．多数のご参加をお願いします．

日　時：1999年11月20日（土）14時00分〜17時00分

会　場：香川大学教育学部第4会議室（高松市幸町1-1）

テーマ：局地気象・中小規模現象

特別講演（14：10〜15：10）

「アメダス風資料からみた中国西部・四国西部・九州の海陸風」

水間満郎（京都大学原子炉実験所）

1．高松における相対湿度の低下の原因について
　*森　征洋（香川大学教育学部)・尾崎美紀（香川県児童青少年健全育成事業団）

2．徳島県での大雨の特性について
　*岩下裕二（徳島地方気象台）

3．夜間冷気流流入前後の乱流統計量の変化
　千葉　修・*蓑田陽平（高知大学理学部）

4．高知豪雨の検証—1998.9.24〜25　局地的状況から—
　*松村　哲・清水栄一・森下　修（高松地方気象台）

5．GPSデータを用いた1998年高知豪雨の研究
　*瀬川知則（高知大学理学研究科)・千葉　修（高知大学理学部)・中村　一（気象研究所)・村松照男（気象庁)・岩淵哲也・内藤勲夫（国立天文台地球回転研究系）